

授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：環境の評価 ILAS Seminar :Environmental Valuation			担当者所属 職名・氏名	フィールド科学教育センター 教授 吉岡 崇仁		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・ 開講期	2018・前期	受講定員 (1回生定員)	7(7)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	フィールド科学教育研究センター 一会議室および徳山試験地(北部 構内)		使用言語	日本語	
キーワード	環境の価値 / 環境意識 / 環境アセスメント / 環境倫理 / 環境哲学						
<b>[授業の概要・目的]</b>							
<p>このゼミでは、環境を評価する意味を考える。環境の何をどのように評価するのか、評価する意味は何か。これらについて、人文社会学、自然科学さまざまな観点から考察を加えます。</p> <p>考察の元となる概念は、環境哲学、環境倫理学、環境経済学など多分野にわたりますが、履修生間での意見交換を通して、これらの基本的概念枠を把握できることをめざします。</p> <p>また、自然科学的な環境の評価と人文社会的な環境評価との関係についても考える糸口を見つけられるようにします。</p> <p>さらに、自然科学と人文社会学の手法や考え方の違いをまなび、両研究分野に関心を持てるようになることを目的としています。</p>							
<b>[到達目標]</b>							
<p>普段何気なく、あるいは全く意識せずに見ている環境について、ひとたび意識をしたとき、その意識が環境の何を見て、どう判断しているのかを理解する力を持つことができるようになります。</p> <p>他の履修生との議論を通して、同じ環境、同じ対象に関して、如何に異なる意見や見方があるのか、その多様性を把握するとともに、多様であることに意味を見いだせる能力を養うことを目標としています。</p>							
<b>[授業計画と内容]</b>							
<p>この科目は、ゼミと野外合宿で実施します。</p> <p>まず、教室（農学部総合館N283室）において、下記の項目に関して講義形式で解説と討議を行います。</p> <p>ガイダンス 環境の価値 環境意識 環境倫理 環境アセスメント 自然科学的環境評価と人文社会的環境評価</p> <p>講義は、5月14日から7月2日（創立記念日6/18を除く毎週月曜日5限目16:30～18:00）の7回の予定です。農学部総合館のN283室（フィールド科学教育研究センター第1会議室）で行いますので、第1回目の5月14日5限目に集合してください。</p> <p>毎回の内容に関連した小レポートを課すほか、環境の評価に関する発表と最終レポートの作成で評価します。</p> <p>最終レポートでは、講義での討議をもとに、環境問題に関わる事案（新聞やネットにある環境に関わる記事など）について、記事内容の要約と環境を評価するという観点を抽出します。その上で、記事が対象とする環境問題に対する自らの考えをまとめてレポートを作成し、下記の合宿で発表し</p>							
ILASセミナー：環境の評価(2)へ続く							

## ILASセミナー：環境の評価(2)

てもらいます。

合宿は、8月中・下旬ごろに1泊2日程度の日程でフィールド科学教育研究センターの徳山試験地（山口県周南市）で行う予定です。この合宿では、森林フィールド施設の現状と周辺の環境について視察し、森林施業に関する実習を体験します。また、野外ゼミの形で環境評価と人間活動との関係などについて討議した上で、あらかじめ準備してきたレポートの内容を発表し、受講生全員で議論し、レポートを完成させます。

なお、合宿の具体的な日程については、教室でのゼミの時に相談して決定します。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点及び達成度】

ゼミ及び現地合宿への出席状況と討議への参加状況を重視（60点）し、適宜実施する小レポートと最終レポート（計40点）の内容で評価します。

なお、現地合宿での発表会には、地元山口県の高校生が参加する予定です。高校生にも分かりやすい発表を心がけるとともに、質問にも丁寧に答える必要があります。これらも討議・参加状況の評価に含まれます。

### 【教科書】

使用しない

必要に応じて、PowerPointのスライドを使用し、プリント等を配付します。

### 【参考書等】

（参考書）

吉岡崇仁編著『環境意識調査法』（勁草書房）ISBN:978-4-326-50326-1（人びとの環境意識を環境のシナリオを用いて調査する手法について解説した書籍。）

フィールド科学教育研究センター編『森里海連環学 改訂増補版』（京都大学学術出版会）ISBN:978-4-87698-581-4（第7-1章で、人間自然相互作用環の考え方、解析方法について考察した。）

Shimizu et al.『Connectivity of Hills, Humans and Oceans』（Kyoto University Press）ISBN:978-4-87698-575-3（森・川・里・海それぞれの生態系サービスや環境の価値についてまとめられている。）

中尾正義ほか編著『中国の水環境問題』（勉誠出版）ISBN:978-4-585-03212-0（第3部において日本の環境アセスメントについて解説。）

ここにあげた以外の書籍については、授業中に紹介します。

（関連URL）

<http://www.fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/>

<http://www.forestinfo.kais.kyoto-u.ac.jp/member/member.html>

### 【授業外学習（予習・復習）等】

ゼミの討議の中で、新しい観点や他者と如何に異なる考え方を自らしているのかについて、様々な気付きがあるでしょう。それらについて復習を兼ねて、小レポートを作成してもらうようにしています。レポート作成は、毎回のゼミの最後10分程度の場合と次回のゼミまでに宿題（1-2時間程度）として作成する場合があります。

### 【その他（オフィスアワー等）】

フィールド科学教育研究センターの森林フィールド施設での合宿授業を行いますので、「学生教育研究災害傷害保険」およびこれに附帯の「学生教育研究賠償責任保険」に加入している必要があ

### ILASセミナー：環境の評価(3)

ります（入学時に加入済みと思います）。

徳山試験地までの旅費、食費（実費）、シーツクリーニング代（実費）などは各自の負担となります。

講義室での討議と合宿における検討会で構成されるため、原則として両方に出席することが科目履修の条件となります。討議には積極的に参加し、分からないことがある場合にはためらわずに質問することを期待しています。活発に議論しながら、考察を深めていければと思います。

講義時間外でも、質問や討議を歓迎します。私の研究室は農学部総合館のN286室にありますので、いつでも訪問して下さい。また、研究室の電話（075-753-6421）への連絡や、e-mail（yoshioka@kais.kyoto-u.ac.jp）での連絡や質問も歓迎します。

合宿は夏休み中の実施になります。日程は、履修生の皆さんとの相談で決めることにしていますが、場合によっては通常の前期成績発表の期日に間に合わない可能性がありますので、あらかじめご承知おき下さい。